

令和4年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

<調査研究報告書タイトル>

児童相談所における要保護児童等の援助事例の実態に関する調査研究

<実施主体名>

有限責任監査法人トーマツ

本事業は、重大事案の発生を未然に防ぐために有効なリスク評価のあり方や対応、重大事案が発生した際の対応等に関する示唆を得ることを目的として、主に2つの観点から児童虐待事例への児童相談所の対応実態について調査した。すなわち、①児童相談所が対応した児童虐待事例の背景にある「虐待に至る要因」を把握・整理する、②児童相談所の対応内容（児童虐待に至る要因や当該ケースにおけるストレングスをもとにしたしながら児童相談所が行った対応内容）について把握・整理する、の2点である。なお、本事業のアンケート調査は、「身体的虐待」事例、及び、「ネグレクトのうち保護者以外の者による虐待（身体的虐待）の放置」事例に焦点を当てている。

本事業においては、①検討委員会の設置・開催、②アンケート調査、③補足的ヒアリング、④報告書の作成といった4つの活動を行った。

アンケート調査は、全国の児童相談所に回答を依頼し実施した。アンケート調査は、「〈1〉回答者及び施設情報」、「〈2〉援助事例数調査パート」、「〈3〉ケースワーク調査パート」の3つのパートからなり、「〈2〉援助事例数調査パート」では、当事業で調査対象とする児童虐待事案のアウトラインを理解するための質問を設けた。また、「〈3〉ケースワーク調査パート」では、調査票にて提示した条件にあてはまる援助事例について、実施した対応（ケースワーク）を詳細に訊ねる質問を設けた。

さらに、アンケート調査を補足する位置づけで、補足的ヒアリング調査も実施した。

アンケート調査の結果と補足的ヒアリング調査により得られた情報を踏まえ、児童相談所が対応した児童虐待事例の背景にある「虐待に至る要因」、児童相談所の対応内容（児童虐待に至る要因や当該ケースにおけるストレングスをもとにしたしながら児童相談所が行った対応内容）について考察し、とりまとめた。